

財団だより

多摩川

1985. 6. 第26号



ハグロトンボ(カワトンボ科)
 腹長50mm。出現期6-10月。
 中流部-下流部のきれいな水
 で、流水がゆるやかなところ
 に住む。体は金屬緑色、翅は
 黒褐色。



舞台上で奉納する水止舞

■ 多摩川博物誌 ■

⑩ ^{みずどめまい}水止舞 ^{ごんしょうじ}(大田区大森東厳正寺)

雨乞の舞はあるが、水止の舞というのは全国的にあまり知らない。大森の漁師町である大森東三丁目の厳正寺で、水止め獅子舞が盆の中日に行なわれる。あまり霊験があるので雨のほしい年には行なわないことになっているが、それは昔のことで、いまの大森へんには田圃がないので、盆になると一年おきぐらいに行なっている。時には毎年行なうこともあり、不定期である。

ここの獅子は普通三頭獅子で、他区で行なっている獅子舞と大差はない。変わっているのは、行列を組んでくるとき、法螺貝吹きの男が、太い藁縄を筒状に作った中へ入っているのを、大ぜいで地上を転がして歩き、ところどころで水を撒き散らされて、中の男はびしょ濡れになりながら、ブーブーと貝を吹いていることである。

筒状に作ったものは、世話人の伝承では田圃の中の虫を形どったものである。あまり雨が降り、その水勢に押し流されるので、雨やんでたもれと、法螺貝のような声を出して哀願をしているのだと解釈されている。獅子はそれを知って雨揚れの舞

道行きでホラ貝を吹く竜神役
写真：平野順治氏撮影(昭49)

を舞台上で演じて、その希望をかなえてやろうというのだそうだ。

私の見たところではこの筒形は、蛇がとぐろを巻いて、身体が上へ上へ重なった形をとったように思える。蛇は竜神とのつながりがある、水とは関係深い。したがって蛇体を痛めて、雨の降らぬようにした行動が、転がしてゆくような苦行の形になったのではないかと思える。田の中の虫というのも一理あるようであるが、どうも蛇体くさい。

この日は幼児の稚児行列がこの舞には付くので、殺風景な町並に花やかさを添えて、盆の墓参りにきた人たちの目を楽しませている。

「東京生活歳時記」 社会思想社 1971



●大田区の獅子舞

大田区郷土の会会長 平野 順 治

多摩川文化圏とでもいうべきものを想定させるかのように、多摩川の流域には3匹獅子舞が広く分布している。

下流域の大田区にも現在、ふたつの獅子舞が伝承されている。ひとつは6月上旬の祭礼時に演じられる六郷神社（東六郷3-10-18）の子ども獅子舞であり、もうひとつは盆の7月14日に行われる浄土真宗巖生寺（大森東3-7-27）の水止舞で、ともにすぐれた特色をそなえている。

昭和の初期から京浜工業地帯に組み込まれ、あまつさえ戦災によって潰滅的被害をうけた城南の地に、昔ながらの獅子舞が戦後いちやく復活していることは、それだけでも注目し値しよう。

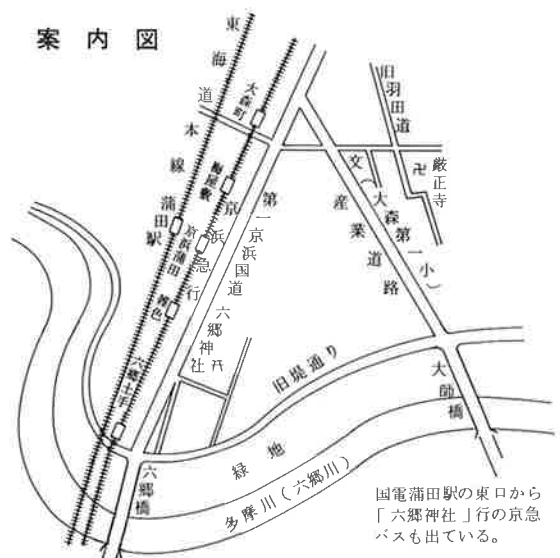
六郷神社の獅子舞は、古来「神事舞」としての伝統を守ってきたため、その演舞は祭礼の日に限られている。本祭りには宮神輿の先導として氏子14町会を「道行」し、土地にひそむ悪霊を踏み鎮めていく。舞の形式は「雌獅子隠し」で、全体をひとつづきで演じ、それをリードする笛の旋律も美しく変化に富んでいる。舞い手は少年3名で、雌獅子、中獅子、雄獅子に扮し、花笠をかぶった少女2名がササラをする。少年が舞うのは全国的にみても数が少なく、この獅子舞の大きな特徴といえよう。『新編武蔵風土記稿』に「早魁の時は獅子頭をいだして雨を祈るに験あり」とあり、悪疫退散のみでなく、往時は雨乞いの信仰をともなっていたようであるが、3箇の獅子頭のうち特に雌獅子の頭は源頼朝が寄進したものと伝えられ、神社重代の宝物となっている。

巖生寺の水止舞は、全国でも珍しい雨を止める

舞で、昭和38年に東京都の無形文化財に指定されている。寺の縁起によれば、永享元年（1429）の夏、日照りで苦しむ農民のために、同寺の法密上人がワラで竜を作り雨乞いをして効験があった。だが2年後、数十日間も大雨が降り続いたため、こんどは3つの竜頭を彫って獅子舞を舞わせたところ、ピタリと雨がやんだ。「時によりすぐれば民のなげきなり八大竜王雨やめたまへ」（源実朝）という祈りの舞である。

太いワラ綱で筒状に雌雄2匹の竜を作り、その中に白装束の男が入ってホラ貝を吹く。この竜神役が「道行」の主役で、若者たちがこれをひきずって4～5メートル進むたびに、沿道から盛んに水がかけられる。それに続いて警固役の少年、笛方、花笠の少女、3匹獅子の順で進んでいく。昭和の初めごろは、竜神役は自分の足で地面をけり回転しながら進んで、今のように水はかけなかったという。山門をくぐって境内の舞台に2匹の竜を押し上げると、ワラ綱を解いて舞台の周囲にめぐらし、やがてその中で獅子舞が始まる。この日はどんなに雨が降っていても、舞が始まるころには、不思議に晴れると言い伝えられている。

都市化が進んだ今日でも、すぐれた民俗芸能というものは、ふだん顧みられないその土地固有の信仰と風流を祭りの庭によみがえらせ、人びとに暮らしの根源を問い直させる力をひめているように思われる。



国電蒲田駅の東口から「六郷神社」行の京急バスも出ている。



立川民俗の会々長 三田 鶴吉

私は多摩川の河成段丘最も顕著な青梅市友田という小さな集落で、大正13年に生まれた。私の子供の頃は夜半自動車が通ると、「だれそれがあぶねえちゅうけれど医者が来たあかな」などと家人の話題になり葬式のふれが程なく廻って来たもので、それほど素朴さの残る村であった。半世紀以上も前の事なので日本中がそんな素朴さの中にあった頃多摩川は一面の磧(いしがわら)で今のように雑草や灌木に覆われているような事はなかった。拙著「角さんの話」の序文にこの村の事を「橋を渡るとT字路で、右、吉野街道青梅みち、左、満路峠越え八王子へ道は青年倶楽部の前から大きく弓なりに寺の堂山を巡り山はなだらかながら軒先に迫り、寺も産生神も分教場も火の見やぐらもそのすべてが箱庭のなかの一点景であった。多摩川はすぐそこに悠久の流れをたたえ、ときには藍色に、ときには濁流うずまく土色に濁があり、瀬があり、清水が湧き、そこには村人の生活を支えた砂利採集場があり、生活の糧があった。“俺は河原の砂利ふるい、どうせ咲かない枯れすすき、子ども心にもこの唄は切なく忘れ得ぬ唄となった。甲州裏街道青梅の宿から一里、玉川上水羽村の堰からも一里、お江戸日本橋から十三里、東京府西多摩郡調布村字友田、わたしはこの村で生まれこの村で育った。村はもとより豊かではないが人情は細やかに濃く思いやりと助け合いに生き、多くの伝説を生み民話を残し昔話を伝えた。

春夏秋冬、人びとの暮らしも生きかたも、工夫と経験の積み重ねがあって、向こう三軒両隣りそれぞれの生活の智慧を持っていた」(後略)この友田の人々は自分達で貧しいながらも金を出しあって多摩川最下流の釣り橋「多摩川橋」を作り東京府に寄付したのである。大正9年のことである。かつて本誌第2号「多摩川散歩」に若アユの碑が書かれてあったが、この文中に「石川博士のアユ放流実験の記念として漁業関係者が建てたもので」とあるが、これはいささか見当違いで、このことは1975-II学会々報に江上忠次氏(東大大正13年卒)が「石川千代松先生の胸像が出来るまで」と題し6頁に亘り書いて居られる。その文中に「青梅の若鮎の碑は私と立川市の三田鶴吉という篤志家の二人の創意によって始まり、これに奥多摩漁業協同組合及び土地の有志の参加によって」と書かれている通りで、昭和48年1月8日の朝日新聞に石川博士顕彰のことを書いて貰ったところ、青梅の医師金田先生やお菓子の町田さんなどからその日の内に連絡を受け、この人達のご尽力で記念すべき「若鮎の白銅の像」が完成したのである。漁業組合は金資元に過ぎなかったが、これが説得には随分苦勞したもので前記江上さんはこのことを、こう書いて下さっている。「石川博士が放流実験して丁度今年は60年目であること、市長を動かすにも、土地の漁業組合が参加して貰う必要があるので、三田君はその説得に専念せねばならなかった。当初漁業組合は当方の真意が解らず、三田君の売名ではないかと疑ったりしたが次第に諒解するところとなり、むしろ組合が主導者となって仕舞った」とありますように一つのものを成功させる事は大変なものである。この度「多摩川は語る」出版に当たってもその通りで、あっと云う間に売り切れたから良いようなものの5000部の滞貨をかかえたら大変な事になったであろうし、その先頭に立つ人にはそれだけの覚悟がいる事を多摩川に遊ぶにつけ回想されてならない。

今私は立川地先に「釣り公園」建設の火をつけ初めている。これも多難な事業かも知れない。

よみがえ

甦れ！多摩川

●二ヶ領用水の再生をめざして

山道省三

今年の4月20日、川崎市の中原市民館で「二ヶ領用水の再生を考える市民の会[※]」が結成された。この会は、用水の桜を守る会の住民を含め、市職員や学者が個人の資格で参加し、勉強会や啓蒙の意味を含めたイベントの開催などを行いながら二ヶ領用水を川崎市の水とみどりのシンボルゾーンにしようとする目的で結成されたものである。二ヶ領用水は周知のように約400年前の江戸時代に農業用水として開削されたのであるが、流域の都市化によって中下流部は下水路と化してしまった。すでに、国鉄の新鶴見操車場近くにある平間浄水場（かつて二ヶ領用水の水を取水し工業用水用に浄化していた）から下はほぼ暗渠化しその姿を消している。どの用水にも言えることだが、都市の用水路は本来の目的を失うと、ことごとく下水路と化す。改修されコンクリート水路となるもの、埋め立てられ暗渠化されるものなどさまざまである。二ヶ領用水は、明治41年当時で農耕地の受益面積は約2800ha、昭和4年、約2100ha、そして現在で約160haに激減している。これに伴い多摩川からの取水権量についても、昭和34年から57年まで9.35 t/s（上河原、宿河原堰の2ヶ所で農業用水7 t/s 工業用水2.35 t/s）、であったものが、57年8月以降、3年間の暫定水利権として5.85 t/s（同様農業用水3.5 t/s 工業用水2.35 t/s）となり61年3月からはさらに厳しい条件になろうとしている。つまり、農業水利の目的が失われるとその分二ヶ領用水を流れる水は極端に少なくなることになる。いずれにしろこのままでは用水はその水源を失うことになる。

環境維持用水ということばがある。数年前から二ヶ領用水の問題でしばしば登場してきたと憶えている。これは、目的を失った水路や汚濁の著しい水路を蘇生するために導水等により本来の良好

な水環境を回復もしくは保全しようとする目的で用いられてきた。すでに全国の河川、水路の中には清冽な他水系からの導水によって水環境を改善している例がみうけられる。高知市の境川からの導水による市内水路の清流化、名古屋市内の堀川へ木曾川の水を導水し浄化する事業（水害防止兼用）、同じく名古屋市内河川へ猫ヶ洞（溜池）からの計画放流などである。こうした事例が示すように莫大な費用をかけてでも都市の水辺の環境改善を図ろうとする動きは全国的な風潮ともなっている。二ヶ領用水にしても単に農業用水の役目が終わったら取水権がなくなるという図式ではなく、この環境維持の目的で清流が流されることが強く望まれている。こうした願いが先に述べた市民団体の結成や市職員有志による二ヶ領問題の研究会としての動きとなってでてきているのである。二ヶ領用水にとって水源である多摩川からの取水をたち切られるとそれは水路の死を意味することになる。たとえ歴史的な意義を持つ水路であったとしても水の流れない水路は水路であり得ない。それは玉川上水がすでに証明していることでもある。もし、多摩川の水利調整や削減が本川の固有流量の確保であり水質の改善対策の一環であるとすればそれはいささか見当違いのような気がする。多摩川の環境改善はむろん多くの人の願いではあるが、それは何も本川のみの問題ではなく、水系全体がそうあらなければ何の意味もない。取水堰など微妙な問題も多々あろうが、それは二ヶ領用水という川崎市民にとって身近かな水辺の喪失と比較するにはあまりにも将来に過恨を残すのではないかと考える。全国に先がけ河川環境管理計画を策定した多摩川でもある。この環境維持用水の問題についてもひとつ全国の範となるような対応が望まれる。

※「二ヶ領用水の再生を考える市民の会」
連絡先 井田安弘 Tel 044-932-1366

《多摩川およびその流域の環境浄化に》 《関する調査・試験研究募集—第二次—》

昭和60年度、助成調査研究（第1次）応募の中から、内定したものは、学術研究11件、一般研究6件で、研究課題、代表研究者、予定研究期間は次の通りです。

〈学術研究〉

- ①多摩川の水および底質における有機塩素化合物の分布
鈴木静夫（東京理科大学薬学部教授） 1年
- ②酵素活性を指標とした多摩川底質の自浄機能に関する研究
多田 史（高崎経済大学教授） 1年
- ③大気降下物（降水・ドライフォールアウト）による多摩川流域への汚染物質負荷の評価
小倉紀雄（東京農工大学農学部助教授） 2年
- ④大型哺乳動物の分布と変遷および土地利用（主にニホンザル）ならびに農林作物への食害発生機構の解明
村松正敏（森林生態研究会） 3年
- ⑤多摩川の水質に及ぼす人類起源の物質の影響
一國雅己（東京工業大学大学院教授） 2年
- ⑥多摩川流域における二次林植生の動態とその維持管理に関する研究
濱谷稔夫（東京大学農学部教授） 3年
- ⑦多摩川支川群の類型化に関する研究
宮村 忠（日本河川開発調査会理事） 3年
- ⑧「多摩川の漁撈文化史」に関する研究
安斎忠雄（安斎宣伝研究室代表） 3年
- ⑨多摩川河川敷におけるイタチの生息状況の把握ならびに行動圏の調査
—ラジオテレメトリー法による—
東 英生（野生動物保護管理事務所代表） 3年
- ⑩大東京圏における多摩川の価値の評価の研究
半谷高久（都立大学理学部名誉教授） 3年
- ⑪多摩川流域における雨水および大気環境中の酸性物質の挙動
大熊貞雄（東京電気大学工学部教授） 2年

〈一般研究〉

- ①小仏川、案内川、南浅川流域の水質調査とその河川をきれいにする方法を探る
水野道子（浅川地区環境を守る婦人の会会長） 2年
 - ②多摩川中流域におけるヤナギ林の成立過程
秋山好則（都立武蔵丘高校教諭） 1年
 - ③秋川流域・加住丘陵の土柱の形成と保全研究
清水長正（明治大学大学院生） 1年
 - ④多摩川上流・日原川流域の陸水学的研究
角田清美（都立小平南高校教諭） 1年
 - ⑤児童・生徒の多摩川観に関する環境論的研究
山下脩二（東京学芸大学教育学部助教授） 3年
 - ⑥多摩川流域におけるウメノキゴケの生息分布調査および大気汚染地図の作成
瀬川典男（私立和光中学校教諭） 2年
- 本年度継続研究を含めても、本年度助成枠に若干の余裕が生じたので、第二次募集を致します。

公募締切日 昭和60年 7月31日

応募についての詳細は下記事務局までご連絡下さい。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目16番14号
（地下鉄ビル内）電話（03）400-9142

財とうきゅう環境浄化財団

財団ではこの度、選考委員の改選を行い、下記新委員で選考委員会が営まれます。

沼田 真 千葉大学名誉教授（生態学）
半谷高久 都立大学名誉教授（地球化学）
中村良夫 東京工業大学社会工学科教授（景観工学）
石毛直道 国立民族学博物館助教授（文化人類学）
篠原三代平 国際商科大学商学部教授（経済学）
西川 喬 むつ小川原開発(株)専務取締役(河川工学)
涌井史郎 (株)石勝エクステリア代表取締役(造園学)
新井喜美夫 財とうきゅう環境浄化財団専務理事

多摩川'85の発刊について

本年度のテーマは、都市の中小河川についての特集にしました。多摩川水系の中小河川ばかりではなく、今回は首都圏の中小河川や全国の中小河川（対策）を紹介するとともに、同じ景観や構造のこうした川が、少しの工夫で個性ある川に変えられないものか、というのが目的です。写真による構成で首都圏の川の姿を知っていただくと同時に、全国の河川環境整備について紹介しました。また、このような問題に直接関係しておられる方々にいくつかのヒントをいただきました。また画

家の岡部一彦氏からは具体的な川をあげ「こんな川になったら……」という絵を数点描いてもらいました。

一方、資料編では総集編で取材した川や、その他の川についても興味深い事例を全国からひろい出し、できる限り詳しい内容のものを整理収録しました。

ご希望の方は財団事務局までお問い合わせ下さい。

夏季多摩川流域の自然環境に関する催物一覧

多摩川流域で夏季行われる主な催物を掲載しました。詳細は各主催者に問い合せ下さい。

● 展示会

開催日	行事名	主催者	参加方法
6月5日～6月11日	ポスター展とパネル展 (小学生の環境ポスターと残堀川の水生生物のパネル)	立川市役所防災安全課 公害係 TEL 0425-23-2111	会場…立川市役所玄関ホール

● 講演会・勉強会

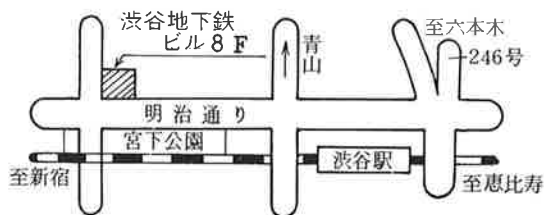
開催日	行事名	主催者	参加方法
6月6日 (13:30～16:30)	環境市民シンポジウム(講演とパネル討論) 講師 柴田徳衛	川崎市公害局調査課 TEL 044-200-2111	会場…中小企業・婦人会館5階大ホール (参加自由)
6月6日 (13:00～16:30)	緑の相談と講演会 講師 江尻光一	大田区役所環境緑化係 TEL 03-773-5111	会場…大田区立生活センター 区民が対象で電話で申込
6月12日 (14:00～16:00)	講演会「立川の自然環境」 講師 三田鶴吉	立川市役所防災安全課 公害係 TEL 0425-23-2111	会場…立川市民会館 (参加自由)
6月8日	理科おもしろ教室(標本づくり) 「おしば標本」	川崎市青少年科学館 TEL 044-922-4731	会場…青少年科学館実験実習室 対象…小学3年生～6年生
6月22日	同上 「化石模型」	同上	前もって電話か直接同館へ申込
7月13日	同上 「プラスチック封入標本」	同上	

● 自然観察会

開催日	行事名	主催者	参加方法
8月3日、4日	合宿による自然観察会(裏高尾)	多摩川の自然を守る会 TEL 0426-36-0902 柴田方	合宿所…国民宿舎「高尾山荘」 京王線高尾山駅下車 6月15日までに往復ハガキで申込
6月8日	観察会「カジカゲルの声を聞く会」	八王子市役所商工観光課 TEL 0426-26-3111	17時…京王線高尾山駅駅前集合 直接市観光課へ申込 (参加費1,000円)

なお、日本野鳥の会東京支部(TEL 03-364-6159)では多摩川探鳥会他を毎月定期的に行っています。また、環境週間(6月5日～11日)に東京都で各種催物が行われますが、詳しい内容は、東京都環境保全局総務部指導相談課、電話03-214-7411、までお問い合わせ下さい。

- 発行日 昭和60年6月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03)400-9142



*印刷所 雄文社 〒336 浦和市常盤9-11-1
TEL (0488)31-8125